

地域のネットワークを活かした 「イタセンパラ保護事業」

～多機関との連携を通じた市民の保護意識の醸成～



はしまイスター
広東もな作

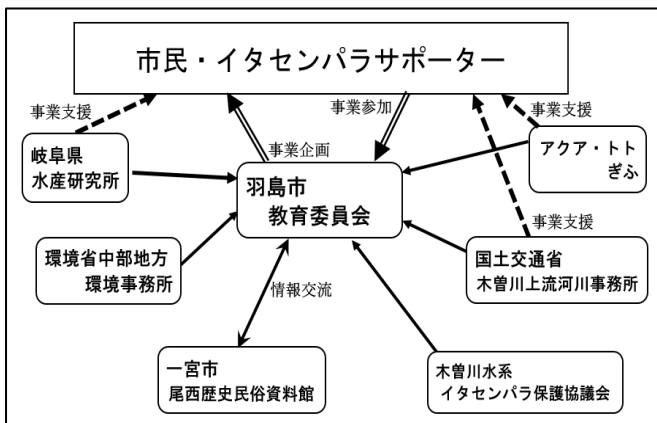
羽島市教育委員会 生涯学習課

1 はじめに

羽島市がイタセンパラ*の保護事業に取り組み始めたのは、平成26年度からです。27年度から市立図書館においてイタセンパラの飼育・展示をし、イタセンパラを知ってもらうことから始めました。

国の取組を見ても、動植物の保護事業を教育委員会が行っている所は多くありません。環境保護の観点や観光と結び付けるという観点から首長部局で扱っています。当市はイタセンパラの保護を環境教育と結び付けるという目標をもって教育委員会が担当しています。

この事業は、環境省、国土交通省、県水産研究所、アクア・トトぎふ等多くの機関の支援で継続・発展を後押しされてきたと言っても過言ではありません。



以下に、当市の具体的な取組を紹介します。

2 保護事業推進のための連携

(1) 環境省による交付金と指導・助言

30年度半ばより環境省から「生物多様性保全推進交付金」を受け、強力に指導・助言を受けることができたことで、本保護事業を大きく推進することができました。

同時に、イタセンパラの保護にかける国の姿勢を感じ、計画の段階から相談にのっていただき、進めることができました。

また、環境省からイタセンパラ保護に関する委託を受けている(株)建設環境研究所の方々と綿密な打合せができるようになっていました。事業を企画・運営する上で専門的な見地からの確かなアドバイスや支援をしていただいております。

(2) 木曽川水系イタセンパラ保護協議会による指導・助言

この保護協議会には、大学の先生をはじめ、国や県の機関、私たち市の機関などが所属をしています。

現在イタセンパラの生育場所は公開されていません。羽島市、一宮市の木曽川沿岸とされているだけです。これは、公開することによって密猟が増えることを恐れているからです。一方で、市民による監視の目を増やそうとしても、どこにいるのかもわからないものを監視のしようがないとも思われています。当市は、イタセンパラの生育場所を公開し、市民がイタセンパラの保護に興味をもてただけのようにしていく必要があると考えています。

(3) 一宮市尾西歴史民俗資料館との情報交流

イタセンパラが生息するのは木曽川であり、イタセンパラにとって県や市の境界はありません。同じ遺伝子をもったイタセンパラを兩岸の自治体が連携して保護していくことは必要だと考えています。そこでお互いに主催する事業の情報交流を行い、参加できる時には参加して、事業の取り組み方や考えを取り入れるようになっています。

イタセンパラ*：木曽川に生息している淡水魚で、世界中でも淀川水系、富山平野と合わせて3か所のみでしか生息が確認されていない日本固有種。文化財保護法の天然記念物、種の保存法の国内希少野生動植物種、環境省レッドリストの絶滅危惧IA類に指定されている。

3 市民の保護意識醸成のための連携

(1) 国土交通省の協力による体験事業の開催

① イタセンパラ塾

国土交通省の中でも特に木曾川上流河川事務所の方々大きくバックアップしていただきながら、市民を対象にイタセンパラについて知ってもらおう講演会や外来種の多さを知ってもら



＜魚類選別体験の様子＞

魚の選別体験、木曾川の水がいかにかきれいかということを知ってもらおう水質調査などを行っています。

② ワンド工事見学

治水のために行ってきた木曾川の工事を、生物も生活しやすい環境を整える工事に切り替えています。その事実を、実際に工事現場の見学を通して知ってもらおうことを大きなねらいとしています。

(2) 県水産研究所による研究を踏まえた講演

イタセンパラの域外飼育の取組が行われている水産研究所は、イタセンパラについて専門的に研究をしている所であり、事業を行う上で講演をお願いすることも多々あります。最新の研究結果を踏まえた講演もあり、何回聞いても新鮮な話題があります。

(3) アクア・トトぎふによる飼育を踏まえた講演

アクア・トトぎふでもイタセンパラの域外飼育が行われています。ここでもイタセンパラについて説明を聞くことができます。特に近親交



＜飼育水槽見学の様子＞

配による絶滅を防ぐため、水産研究所の他に2か所でも飼育されており、計4か所での交流につ

いての話を聞くことができます。

また、「イタセンパラツアー」を企画し、水産研究所とアクア・トトぎふでそれぞれ飼育・研究されている普段見ることができない施設や設備を、説明を聞きながら見せていただいています。

(4) 市民によるイタセンパラサポーター

イタセンパラを保護していく上で、密漁を防ぐことは大きな施策となります。そこで、地域住民の協力を得ようとしたものが「羽島市イタセンパラサポーター」制度です。より多くの人にイタセンパラを知っていただき、事業に参加したりスタッフとして支えたりしていただいております。



＜募集チラシ＞

また、散歩などのついでに木曾川を見ていただき、密猟者がいないか監視の目を広げていきたいとの願いをもっています。

(5) 学校における飼育・展示

市立図書館においてイタセンパラの飼育・展示を始めてから、木曾川沿岸を校区にもつ市内の4小学校へ飼育・展示を広げてきました。イタセンパラの世話を通して、生息できる環境を整えることの大切さを学ばせると同時に、地域の方々にもイタセンパラの保護事業についての理解を得ようとしています。

4 今後の事業推進

今後さらに市民の保護意識を醸成するために、施策の継続はもちろん、新たな施策を考える必要があります。

そこで、「羽島市と民間企業等との協働に関する提案募集」制度を活用し、この保護事業を広げていきたいと考えています。

具体的には、市より「イタセンパラ保護事業協力店」として指定させていただき、関連商品を開発したり包装紙にシールを貼ったりするなどして、消費者の方々にも保護事業について理解をしていただきたいと考えています。